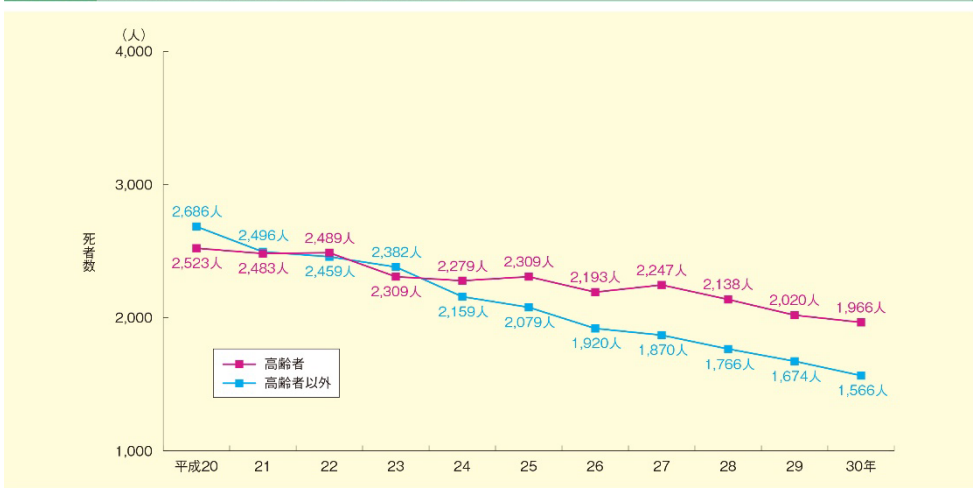


高齢者の交通事故死者数

高齢者の人口10万人当たりの交通事故死者数は引き続き減少しているものの、交通事故死者数のうち高齢者は1,966人であり、その占める割合は過去最高の55.7%となった。

▶第1-4図 高齢者及び高齢者以外の交通事故死者数の推移

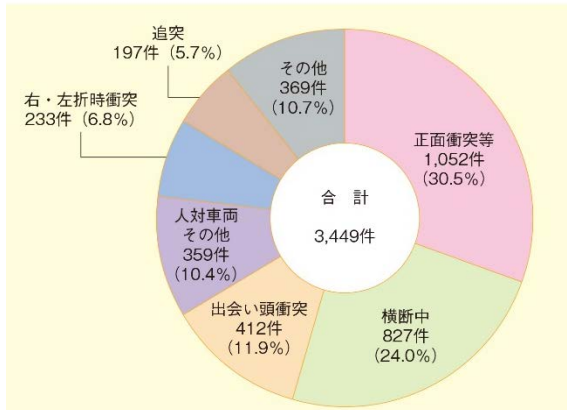


注 警察庁資料による。

事故類型別交通死亡事故発生件数

平成30年中の交通死亡事故発生件数を事故類型別にみると、正面衝突等※(1,052件、構成率30.5%)が最も多く、次いで横断中(827件、構成率24.0%)、出会い頭衝突(412件、構成率11.9%)の順で多くなっており、この3類型を合わせると全体の66.4%を占めている。

▶第1-7図 事故類型別交通死亡事故発生件数(平成30年)

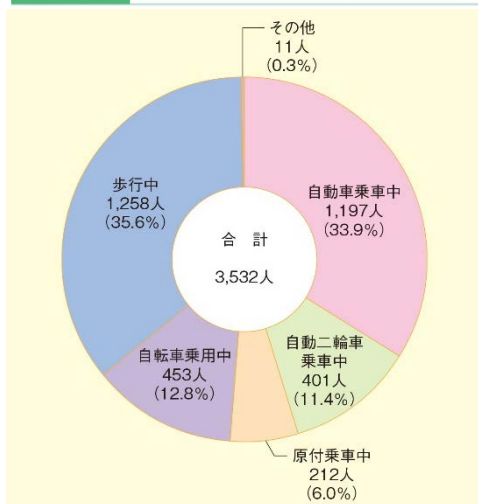


注 1 警察庁資料による。
 2 「人対車両その他」とは、人対車両の事故のうち「横断中」以外の、対面通行、背面通行、路上横臥等をいう。
 3 「正面衝突等」とは正面衝突、路外逸脱及び工作物衝突をいう。
 4 ()内は構成率である。

状態別交通事故死者数

状態別交通事故死者数は、歩行中(1,258人、構成率35.6%)が最も多く、次いで自動車乗車中(1,197人、構成率33.9%)が多くなっており、両者を合わせると全体の69.5%を占めている。

▶第1-11図 状態別交通事故死者数(平成30年)

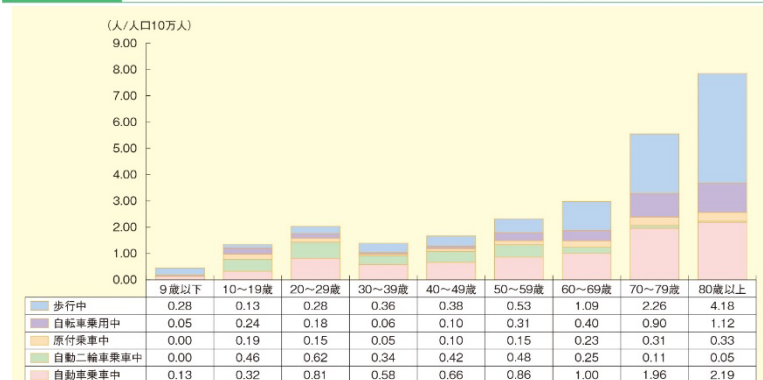


注 1 警察庁資料による。
 2 ()内は構成率である。

年齢層別・状態別交通事故死者数

歩行者中死者数(人口10万人当たり)については、高齢者で多く、特に80歳以上(4.18人)では全年齢層(0.99人)の約4倍の水準となっている。

▶第1-18図 年齢層別・状態別人口10万人当たり交通事故死者数(平成30年)



注 1 警察庁資料による。
 2 算出に用いた人口は、総務省統計資料「人口推計」(平成29年10月1日現在)による。